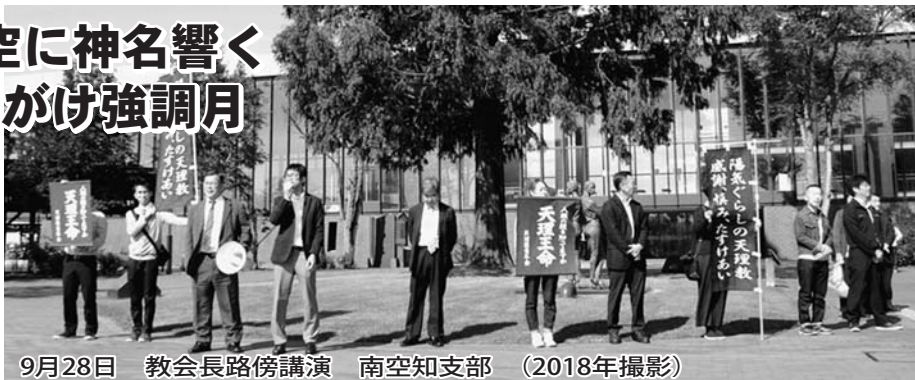


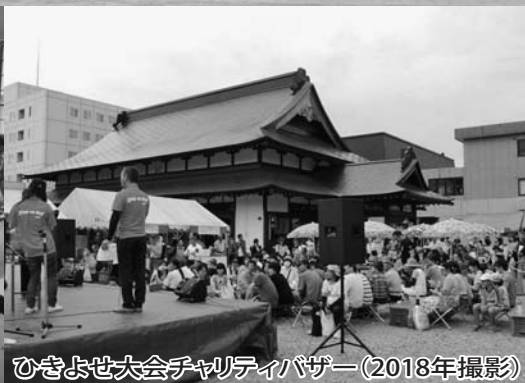
秋の晴れ空に神名響く 9月にをいがけ強調月



9月28日 教会長路傍講演 南空知支部 (2018年撮影)



8月14日 にをいがけ勉強会 3p記事掲載



ひきよせ大会チャリティバザー (2018年撮影)

ひきよせ

天理教夕張大教会
北海道岩見沢市9条西6丁目
〒068-0029 ☎0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
HP bariten.main.jp
yubaridai146@gmail.com

貴方への手紙 (307)

人間の鳴き声とは何でしょう？ 貴方は声を出して泣けますか？

私は父母との別れに涙は出たが、こんなとき子どもなら声を出して泣けるが、大人はどうだろうか？ 小鳥や生きものは固有の鳴き声を持つているが人間はどうか？ 人間だけの鳴き声は何だろうか？ 人は八千八度の生まれ変わりをしているからどんな動物の鳴き声も出せるのか。しかし固有の鳴き声は何だろうか？ とその疑問が消えなかった。

私はある日、人のいないところで声を出して泣いてみようかと試みたがだめだった。人の鳴き声が何かは分からないままだった。

私は20年前から岩見沢市民合唱団「こぶし」に入っている。嬉しい歌、悲しい歌、感動の歌があり、歌っているうちに気がついた。歌声こそが人間の鳴

き声なのだ。そうに違いないと思った。

私たちにはおつとめがある。神様から教えて頂いたおつとめの地歌。それをおやさまが歌いになった。おつとめはおやさまのお声そのものだ。毎日しているおつとめのお歌、それが人が持つ固有の鳴き声ではなかるうか。今はそう感じている。

母は私より先にこぶし合唱団のファンになっていた。よく合唱団の発表の際、信者さんと一緒に観に行ったりしていた。私らが入団以来、大教会の食堂で練習することも多々あり、皆さんと親しくなるにつれ、おちばに帰る人も次第にできた。おやさまの教えの魅力を語る人もいる。毎年9月のバザーのお手伝いや子ども食堂のお手伝いをして下さる人もあり、街の人に親しんでもらえることはありがたい。

今年「北海道のうたごえ70

周年記念祭典 in 札幌」での発表会が9月7日に開催され創部40年の「こぶし」も出場。私ら夫妻は入団20年。団員は高齢になり出演できるだけで喜んでいたので結果はなんと驚くなかれ、優秀な常連チームの中で初めての一位を獲得した。実は妻は体力的に今年を最後に退団を決めてい。まさに有終の美であった。人生の時間は貴重であり歌う時間が貴重な昨今、共に笑い、共に歌うかけがえのない時間は、感謝と喜びに満ちあふれている。

9月22日は第31回「ひきよせ大会」チャリティバザーが開催されます。その趣旨は、地域に教会を開き、家族ぐるみ、ご近所ぐるみで教会に来て頂きたいことでもあります。今年も皆さんのご協力で盛り沢山のお楽しみ行事が企画されています。ぜひ秋の一日を感謝し、陽気にお楽しみください。

9月10日記

今後の予定

- 9月22日 ひきよせ大会チャリティバザー
ぜひご来場ください！
- 10月28日 全教一斉にをいがけデー
秋季大祭団参

※大教会信者会館の屋根塗装、軒天修理、壁補修、塗装、陸屋根防水工事など、9月10日にはわずかな部分を残し仕上がりました。ご協力頂いた皆様に厚く御礼お礼申し上げます。

八月月次祭の様

7月から続く信者会館・教職舎の屋根壁補修工事、着々と作業は進み、外壁の色も少しずつ新しい色へ、綺麗に塗り替えられる最中の8月の祭典であった。

前日には布教部主催のにいがけ勉強会が開かれ、来る9月の布教実動に向けて、参加者達は気持ちを高めていた。

幾分か涼し気だった祭典当日お盆時期もあつて参拝場は多くの参拝者で賑わった。

祭文奏上に続いて座りづとめ・十二下りのておどりが勤められ、段々と上がってきた気温に負けず一手一つに勤め、高らかに唱和するみかぐらうたが神殿中に響き渡った。

おつとめ終了後まず辞令交付があり、石狩川隊・沼貝隊・祝梅隊・峰延隊・理の峰隊・旭都隊の新たな隊長が任命された。



講話にはまず志水隆・北篠津分教会長が立ち「私は教会に生



まれ育ちでしたが、子どもの頃は天理教が嫌いでした。小学生の頃はこどもおぢばがえりや夏季練成会にも参加した事がありました。が、中学校になると足が遠のき、高校生時分は毎日通学で大教会の前を通っていたにも関わらず、参拝に足を運ぶことはありませんでした。

高校卒業後、札幌の専門学校に進学する事にしましたが、当初一人で暮らすつもりでした。奇しくも学校の近くに長沼分教会があり、その学校に行くなら長沼に下宿しろ、と父親に言われ、渋々ながら長沼から学校に通う事になりました。

人見知りの激しい私でしたが、会長の千葉宏司さんはじめ家族皆さんとても優しく、また下宿の先輩達もよく面倒を見てくれて、まるで家族の一員になったような心持でした。思い出されるのは、教会対抗の野球大会で優勝し、みんなで祝杯を挙げたことです。

宏司さんに連れられて大教会へ行くうち、バンド仲間の一人だった渡部卓哉さんに『夕張の鼓笛隊を作るから、手伝つてくれ』と頼まれ、創設に携わる事になりました。さらに、当時家族で住み込んでいた卓哉さんに誘われて、専門学校卒業後に大教会へ住み込む事を決めたのです。

20歳からの2年間、大教会で住み込みの間に修養科・講習を修了し、また各種講習会へと参加させて頂き、短い期間ながらも非常に勉強になったと感じています。

現在の会社では私が天理教である事を皆知ってくれているので、天理教をより良く感じてもらえるよう心掛けています。6年前に会長の御命を戴きました。が、仕事の都合でなかなか大教会・上級の御用に間に合わない時もあります。ですが、自分が出来的时候には精一杯務めて参りたいと思います」と語った。

次に富山真理子・栗山分教会長夫人が壇上に上がり「栗山の



神殿前に、ここ何年かお花を植えるようになりました。日当たりも丁度良く、とても綺麗に咲いてくれます。水やりはもちろんの事ですが、老け花から種を取る、という事も気を付けています。これが咲いている花の長持ちの秘訣のようです。

教会の裏の畑を手掛けていて感じたのが、作物に種を残してはならない、という事です。豆などを収穫し残しがあると、豆自体が『もう種を作った』と思いで込んでしまうのか、そこから新たな豆が出来ない気がします。

この作物にはこの肥料、この作物はこう育てる、と色々と考えながら作物ごとに合った育て方をしています。孫も大きくなるような歳になつて気付いたのは、人間も作物と同じく、種に合った育て方をしなければならぬ、という事です。

栗山の教会に嫁いで40年、その間にはたくさんの方との出会い、そして別れがありました。たくさんの方とお別れして参りましたが、その方達が守ってくださっているから、今があるんだと感じております。

山陰地方には生涯独身で布教に歩かれた二人の先生方がいました。教会を設立しては後進に託し、また別の場所へ、と繰り返して

返していた凄いな方達でした。その方が晩年を過ごした教会に、私の祖母が養女に入りました。この布教師の通り方と私の出自を考えた時、私は第一に教会の事や自分の立場を考えるのではなく、『いちおたすけ人』として通る事が大事だと思ふのです。

初代の方々が通つてこられた道や、自らを顧みずにおたすけに歩かれた布教師の思いに近付くように通つていきたいと思ひます。

私が子供の頃、弟が小児がんの身上を頂きました。両親はどうやったら弟にご守護頂けるかと感じ合いを重ね、同じく身上で苦しんでいる方々のおたすけを精一杯させて頂こう、と決めました。それから教会では何人もの精神疾患の方を預かり、お世話取りをさせて頂く毎日です。大変な事も多く、子ども心に逃げ出したい思いに駆られることもありました。が、お陰さまで、小児がんと骨髄炎を患うと成人まで生きられない人がほとんどでしたが、弟は会長を務め、また子や孫も出来ると、信じられないご守護をお見せ頂いたのです。

来年には栗山の会長が交代致します。交代後はより一層、一人のおたすけ人である、という

自覚を強め、勇んで務めて参りたいと思います」と話した。

大教会長は挨拶で「世の中には、天理教とそっくりな事を言う団体はありますね。しかし『我が家のいんねんを切り替える』というような考え方は、天理教以外にないように思います。藤田家は不眠症をご守護頂いて、この道の信仰に入りました。年月を重ねる間に、お道から離れていく人もいますね。すると不思議な事に、そういう方が不眠症になる。いんねんは中々切り替えられませんが、切り替えられる道を通らせてもらっている。これが有難いのです。」

私は天理教とはまた別の奉仕団体に入っています。そこでは『超我的奉仕』という言葉があります。これは『よくをわすれてひのきしん』と同じですね。また『最も奉仕する人、最も報われる』という言葉もあります。これも『人助けたら我が身助かる』と符合しますね。その団体ではこの二つの言葉を標榜しているんです。しかし『いんねんを切り替える』というものに合う言葉はありません。

これらの奉仕団体と私達天理教を分けるものは何か？それは親神様を親としてこの世に生まれ、陽気ぐらしをするために生

かされている、という事です。いかに元の親に喜んでもらうかという行動原理が私達の中には息づいているのです。

大きな違いを感じるのには、お道の人には『ありがたい』という言葉が出てくるのが多い、という事です。世間一般では、暑い、寒い、痛い、苦しいものは苦しい、そのままの意味です。それを信仰においては、その場だけの感情ではなく、いかに喜びに変える事が出来るか。普段から『ありがたい』と感じられるように心の向きを変えていく、これがお道の素晴らしいところだと思います。

天理教においてのおたすけの方法は、まず『つとめ』と『さづけ』。それを基本にしながらも、色々なおたすけの形があると思います。たくさんの人と関わり合いながら、それぞれのおたすけの形を探して、おたすけをして頂きたいと思います」と述べられた。

布教部 にをいがけ勉強会

8月14日、大教会大広間にて布教部主催のにをいがけ勉強会が開催された。大教会長の挨拶の後、2名の布教の家OBによる体験談の発表があり、実際の現場においての心構えを学んだ。

次に戸別訪問における、具体的な対応例のレクチャーを受けて、二人一組で戸別訪問の練習を行った。9月に控える布教実動日に向けて、それぞれが意識を高める機会となった、意義ある勉強会であった。

婦人会 女鳴物勉強会

8月20日午前10時より午後2時まで、婦人は委員長対象の女鳴物勉強会を開催し24名が参加した。

これは婦人会創立110周年に向けてのスローガン「全部の女鳴物を弾けるようになりましょう」にそって昨年より開いている勉強会で、おつとめ、支部長の挨拶につづき各鳴物に分かれて、また、個々の一歩前進を目指して練習に取り組んだ。「長年思い込んでいた指使いの癖に気づきました。」「自分のゆつく



りしたペースに合わせ指導してもらい、有意義な時間がもてました。」などの感想が寄せられ、開催の重要性を感じられた日であった。

教会それぞれで おとまり会こども会開催

旭都分教会
8月3日おとまり会を開き、育成会員9名、少年会員3名が集まり、焼き肉、花火を楽しんだ。翌日は大教会のこども会へ参加した。



清真布分教会
8月4日教会こども会を開催。少年会員6名、大人15名でパーベキューと花火を楽しんだ。

幌都分教会
8月5、6日、月次祭前日に集まった少年会員6名、育成会員8名でおとまり会を開催。おつとめ練習後夕づとめ、花火をして参拝場にテントを張って就



寝。翌、月次祭をつとめた後、銭函で海水浴を楽しんだ
新生生分教会
8月16日育成会員2人、大人10人、子供22人。計34人で教会こども会を開催。流しそうめん、パーベキューをし、お化け屋敷、花火と楽しみました。

第48回 祝梅若人会夏季練成会

8月10日から11日の2日間、祝梅分教会において夏季少年練成会を少年会員13名、育成係15名、ひのきしん26名、総勢54名の参加の御守護を頂きつとめさせて頂きいただきました。

初日は「自炊」でカレーライスを作り、夜は楽しみにしていた「きもだめし」で涼しんでもらいました。2日目「クラフト」では貝殻やシールなどで飾り付けしたフォトフレームの作成やスイカ割りを行い、その後大きなお風呂に入浴しました。昼食では、バイキング形式の豪華な会食を頂き、午後からは「教話」や「おてふり・鳴物練習」を行いました。家族ぐるみでの参加や、新し



い友達にも参加頂き、会員の皆さんが元氣一杯で過ごさせてくださいました。伊藤伸幸

学生ひのきしんデー & キャンプ 「あたたかい夏」

学生会委員長 渡部佳太(清真布) 8月10、11日、一泊二日で学生会主催の行事をしました。



10日は、栗山温泉パラダイスヒルズでカレーを作りキャンプ、11日は石狩浜海水浴場あそびビーチでゴミ拾いと海水浴を楽しみました。両日とも天候の心配がありました。両日も神様のあたたかい親心により、大きな予定変更をすることなく親睦を深められました。

夕張の学生会は、4年続けて「春の学生おちばがえり」に参加できていることもあり、今回の行事でも多くの参加者を期待し声かけに励みましたが、最終的には学生層(高・大・短・専)の参加は私だけとなりました。私自身のおちばで育てていただいた



経験等を同世代に伝え、ともに教理を学び実践していきたいと考えていますので、学生の参加が得られなかったことは残念です。しかし、スタッフの協力もあり少年会員5名を含め計12名と寝食をともにし、ひのきしんをするなど貴重な体験をすることができました。学生会にとらわれず、会を超えてこの経験を生かしていけたらと思います。

今回の行事を開催するにあたり、各教会、スタッフには声かけ等ご協力を頂き、ありがとうございました。これからの学生会活動にもお力添えいただけますよう、どうぞよろしくお願ひします。

学生生徒修養会 高校の部に参加 齊藤 空(東苗穂)

僕は今年の学修には初参加でした。高校一年の時には学修に行くのが億劫でしたが、今回はなぜか行くと行ってしまい、参



加することになりました。

学修1週間前に、だんだん緊張してきて、学修に友達がいなので「友達ができるかな」とか考えていたけど、実際に初めて職員と会った時、皆優しく迎えてくれて、その後の1週間が楽しになりました。

学修が始まるとすぐに仲良くなり、それぞれ個性があつて本当に面白い人達でした。ひのきしんをしたり、一緒に三昧田まで歩いて行く行事をしていく中で、さらに仲良くなっていって、すごい青春を感じました。夜寝る前も楽しくて、喋ったり他の人の布団に行ったりして、普段高校の人とはすることがあまり無い体験ばかりで、非日常でしたが楽しくて、最後には離れたくないくらいになっていました。また来年も参加したいです。

庶務部 8月

- ▽初席 越後谷叶有(長沼) 8月7日
- 村田 和彦(新人生) 8月25日
- ▽おさづけの理拝戴 藤原 智也(直轄) 8月29日
- ▽修養科941期新人生 9月1日
- 阿部 恭子(直轄)
- 高橋都志子(祝梅)
- 村田 和彦(新人生)
- ▽ひのきしん
- 詰所ひのきしん
- 矢野 宏信(富陽) 8月18日
- 矢野 明子(富陽) 8月18日
- 山根ふじの(善進道) 8月25日
- ▽おまもり 2件 8月27日

大教会日誌抄 8月

- 1日 こどもおちばがえり帰会
- 2日 たすけ推進会議
- 4日 夏のことも会
- 10日 学生会夏のひのきしんデー (11日)
- 14日 月例会議
- 布教部をいかけ勉強会
- 月次祭準備
- 15日 月次祭
- 18日 鼓笛スタッフ会議
- 19日 会長、おちばへ
- 20日 婦人会委員長女鳴物勉強会
- 24日 会長、本部神殿当番
- 26日 会長夫人、おちばへ 遙拝式
- 27日 会長、かなめ会
- 28日 会長夫人、帰会
- 29日 会長、帰会
- 31日 たすけ推進会議